



實性

平成二十六年 第二号 春彼岸発行

春のお彼岸のご案内

お彼岸の由来

お彼岸は、私たちの心が清らかにして、日頃の悩み、苦しみの世界から理想の世界に立ち返らせていただく、大切な機会です。

私共は、仏様の慈悲のもと、ご先祖様守護のもと、父母のご恩、そして、諸所の人々の縁に支えられて暮らしております。そんな皆様の為にご恩返しできる、尊い歩みが出来るような人になりたい、という願いが込められる一週間がお彼岸です。彼岸は、向こう岸、迷い、煩惱の世界から河を渡り、悟りへの世界を目指す日です。

私共は、常日頃、一生懸命仕事をし、家庭を守り、忙しい日々を過ごしております。せめて、春秋の一週間、自分を見つめ、反省し、感謝し、仏道修行を致しましょう。これを六波羅蜜（ろくはらみつ）といいます。

六波羅蜜とは、

布施（ふせ）
施しをする、ボランティアの原点、奉仕をする事

持戒（じかい） あらゆる生き物を大切にすること
忍辱（にんにく） 耐え忍ぶ事
精進（しょうじん） 努力する事
禅定（ぜんじょう） 心を静に保つ事
智慧（ちえ） 勉強し知識を高める努力をする事
自然をたたえ、生物をいつくしみ、人々を愛し、先祖を敬い、亡くなられた人々を偲び、感謝の気持ちでお墓参りをしたいものです。

彼岸会法要

●三月二十一日（金） お中日

午前十一時より

参加費（お布施） 五千円



お彼岸入り 三月 十八日（火）

お彼岸中日 三月二十一日（金）

お彼岸明け 三月二十四日（月）

皆様お揃いで是非ご参加下さい。

涅槃会

涅槃会とは、お釈迦様の入滅（亡くなられた）された二月十五日です。

お釈迦様の伝道は、北インドのガンジス河を中心に、四十五年間の永きにわたりました。八十歳となられたお釈迦様は、阿難（アーナンダ）と数名の弟子をともなつて、王舎城（ラージャグリハ）からクシナガラへと、伝道の旅をなさるのです。自らの入滅を予想され、生まれ故郷のカピラ城へ向かわれたようです。重病にもかかわらず、弟子達の助けをかりつつ、お釈迦様はさらに歩みを進められるのです。カククッター河で沐浴され、疲れを癒やされた後、ビハール州クシナガラのサーラ樹林（沙羅双樹）にたどりつかれます。お釈迦様は、身を横たえられたまま、集まった人々を前にして最後の説法をなされます。よく戒めを守り、五欲を慎み、静寂を求めて努力をし、定を修して悟りの知恵を得るべきことを示されるのです。そして、静かに如来としての永遠の涅槃に入られるのです。阿難をはじめ弟子達の嘆きは、想像を絶するほど深いものであったでしょう。

涅槃図には、真白い花をつけたサーラ樹の下で、お釈迦様は、頭を北に顔を西に向け、右手を枕にして横臥し、周囲には十大弟子をはじめ、老若男女、鳥獣達さえも嘆き悲しみ、百獣の王である獅子までが、仰向けになって慟哭している様子が描かれています。図の右上には、とうり天からかけつたお釈迦様の母君、マヤ夫人が描かれています。

法然上人涅槃図

一月二十五日は法然上人の御命日です。「御忌」の法要が行われますが、本山では四月に厳修されます。

法然上人が入滅の時の絵が「法然上人涅槃図」です。法然上人は、大勢の弟子にかこまれ、墨染めの衣にて合掌なされ、南無阿弥陀仏のお念仏を唱えられながら念仏往生されました。



釈迦涅槃図



法然上人涅槃図

修正会報告

一月三日、多数の檀信徒各位のご参加の元、平成二十六年
度修正会が厳修されました。

当日は、国家安泰・先祖代々・家内安全、無病息災等をお
祈りし、絵馬に諸願成就を書き、奉納いたしました。
清宴では、衆議院議員鴨下一郎先生にも新年のご挨拶をい
ただき、三味線漫談、柳家我太楼師匠の司会進行のビンゴゲ
ームでお楽しみいただきました。

来年度の修正会も多数の皆様のご参加をお待ちしております。

今年度参加された方々の御芳名です（順不同）

遠山 甚蔵様	鴨下 一郎様	鴨下 光江様	鴨下 令子様
遠山 長昭様	鈴木 雅之様	鈴木 トウ様	鈴木 裕子様
鈴木 弘美様	鈴木 進様	郡司 公子様	大石 光三様
大石登喜子様	大石いづみ様	王 建様	片原紳一郎様
金杉 洋子様	金杉 詩音様	金杉りつ子様	小林 正明様
小林記久子様	小林 茂男様	佐藤 きく様	下河 俊夫様
下河みな子様	下河 秀豪様	菅原 幸造様	菅谷 春雄様
菅谷 和子様	鈴木 常子様	鈴木 幹子様	高埜 勲様
高埜はつる様	滝澤 一江様	寺井 基子様	日野 忠明様
日野久見子様	傍島 清二様	増田 孝二様	増田 英子様
増田 裕樹様	眞見 秀雄様	竹内 鈴奈様	竹内 竜騎様
渡邊 一夫様	芦川 永吉様	芦川 亨様	和井田智広様
大胡 博昭様	米沢 恒夫様	松野まさ子様	井下 佳弘様



井下千恵子様	小川 幸子様	水谷
水谷 勝彦様	水谷美津江様	水谷
笠原 正樹様	笠原 麻耶様	
		明様
		水谷
		澄江様
		朱里様

先代大徹上人七回忌

平成二十年二月十三日、八十六歳にて遷化されました、先代実性寺二十八世松野大徹上人の七回忌法要が、二月八日（土）三時より、実性寺本尊・阿弥陀如来法前にて厳修されました。

正安寺ご住職、田丸嶺信上人御導師のもと十四名の御住職様方により御回向賜りました。

当日は、四十数年来の大雪となり、大変ご不自由をおかけいたしました。又、檀信徒の代表の方々にも、御焼香いただき、感謝の念にたえません。

先代の御法号は、

中興廻光心院圓蓮社正僧正眞譽上人晃阿曉雲大徹大和尚

大変長い戒名ですが、その中の「曉雲」という二文字は、書道の雅号があらわれています。先代は、書道がお好きでした。晩年は、卒塔婆を書くにも、一本に三十分もかけて丁寧に書きになられておりました。又、卒業式が近づくと、学校からの依頼により卒業証書を一枚一枚、夜遅くまで、こちらも丁寧に書かれておりました。愚生も筆を持つ時、先代父に少しでも近づきたいと思いますがなかなか思うようになりません。今更ながら、先代の偉大さを感じております。

当日、各部屋に、先代の遺墨を掛け参列の方々に見ていただき、追善回向申し上げました。



二十八世松野大徹上人七回忌法要

慶弔便り

〔弔の部〕

平成二十五年

十二月二十二日 高瀬 司殿 父君 進様

八十歳

平成二十六年

一月 八日 荒川正子殿 夫君 正蔵様

八十歳

一月 二十五日 林 哲司殿 母君 秀子様

八十六歳

二月 七日 高安啓子殿 母君 須川キクヨ様 九十八歳

新檀家ご紹介

花 畑 野下 善七 殿

西保木間 市村 信治 殿



境内の花

今年も境内に紅白の梅が咲き始めました。これからの季節多くの花が咲きますのでご覧ください。



花まつり

四月八日（火）は、お釈迦様がお生まれになられた誕生日です。お寺で、灌仏会が開催されます。お釈迦様の誕生をお祝いし、誕生仏に甘茶をかけお祝いいたします。

本堂前（御拝）に花見堂が出ております。お参りいただいた方に「甘茶のティーバック」をさし上げます。

● 日時 三月下旬より四月上旬まで

午前十時より午後四時まで

● 場所 實性寺 本堂前（御拝）



第十五回 實性寺寄席

「第十五回實性寺寄席」を開催いたします。
皆様のご来場をお待ち申し上げております。

● 四月十二日（土）

開 場 五時三十分

開 演 六 時

木 戸 銭 六 百 円

☆ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くても十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確ですのでご利用下さい。

ファックス番号 03（3883）3227

振替 口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七-十八
電話 03（3883）8866

浄土宗 實性寺